

「国民の財産」看板設置

ナショナル・トラスト協
支援者ら命名、古志の森に

公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会(東京都)は18日までに、奄美大島の森林保全を目的に全国から総額約2千万円の寄付を集めて取得した土地に看板を設置した。看板には買い取りを支援した企業や個人らが命名した全20区画の森の名前が刻まれ、「国民の財産」として永久に守られる」と記載した。同協会は「地元の人が

ちと土地を活用する方法を考えたい」として、同協会は国の特別天然記念物アマミノクロウサギなど希少な動植物が生息し、世界自然遺産の候補地になっている同島で、法的保護の網にかからない民有地を乱開発から守ろうと瀬戸内町の土地98万

2854平方メートルを取得した。今年3～7月に全国から寄付を募るキャンペーンを実施し、航空会社やゼネコンなどの企業や約380人の個人から総額2004万5942円が集まった。地元の県立古仁屋高校の生徒会も街頭募金などで寄付に協力し

対象地は同町古志集落(32世帯60人)の山手に点在している。土地に隣接する林道の2カ所に看板と案内標識が設置され、同協会の関健志事務局長と同集落の佳和也区長(66)が18日、現地を訪れた。土地は森のまま保存し、環境教育やエコツ



看板を設置した現地を訪れた日本ナショナル・トラスト協会の関健志事務局長(右)と佳和也区長＝瀬戸内町古志

アーの場などに活用する。佳区長は「集落の水源地が開発されずに守られるのはいいこと。協会の取り組みに協力したい」と述べた。

関事務局長は「トラスト地というブランドを生かして、地元を経済的な効果を生むように活用していきたい」と語った。